

業種名		前年同月比				業種名		前年同月比			
		売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況			売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況
食料品製造業	漬物	↓	↓	→	→	卸売業	肥料	→	↓	→	↓
	醤油・味噌	↓	→	→	↓		◎卸団地(津)	↑	→	→	→
	豆腐	→	→	↓	↓		◎商業(鳥羽)	↑	→	→	→
	日本酒	→	↓	↓	↓		◎青果(松阪)	→	↑	↓	→
繊維製品製造業	◎組紐(伊賀)	→	→	↓	→	小売業	自転車	↓	↓	↓	→
	衣料縫製	→	→	→	→		家電	↓	↓	↓	↓
	テントシート	→	→	→	→		石油	↓	→	↓	↓
木材・木製品	→	→	→	→	スポーツ用品		↑	→	→	→	
紙・紙加工品	段ボール箱	↓	→	→	↓	商店街	◎熊野市	→	→	→	→
	古紙	↓	→	↓	↓		自動車整備	→	→	→	→
印刷	→	→	→	→	サービス業	◎宿泊施設(鳥羽)	→	→	→	→	
窯業・土石製品	生コンクリート	↑	→	→		→	旅行業	↓	→	↓	→
	◎陶磁器Ⅰ(萬古焼)	↓	→	↓		↓	◎飲食業	→	→	↓	↓
	◎陶磁器Ⅱ(伊賀焼)	↑	→	→		→	警備業	↓	→	→	→
金属・一般機器・電気機器・輸送機器	鍍金	↑	→	→	→	建設業	総合工事業	↓	→	→	→
	◎機械器具(四日市)	→	→	→	↑		内装工事業	↑	→	↑	↑
	◎機械器具(久居)	↑	→	→	↑		電気工事業	→	→	→	→
	◎機械器具(伊勢)	↓	→	↓	↓		◎水道工事業(津)	→	→	→	→
	◎電気機器(鳥羽)	↓	↓	↓	↓	運輸	トラック輸送	↑	→	→	→
	◎輸送機器(鈴鹿)	↓	→	↓	↓		◎不動産(鈴鹿亀山)	→	→	→	→

↑…増加・上昇・好転 →…変わらず ↓…減少・下落・悪化 ◎…地域単位の組合

情報連絡一覧票

(三重県中小企業団体中央会・平成25年4月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	たくあん漬の売上高は横ばいであったが、白菜漬などの浅漬はやや減少した。 (北海道札幌市保健所管内の業者製造の白菜キムチ漬けを原因とするノロウイルスによる食中毒の発生も一つの原因と考えられる。H25.4.20発生、H25.4.30公表)
		豆腐	原材料等が値上がりしてきているが、販売価格は据え置かれたままで、収益は悪化している。
	木材・木製品	木材	国による木材利用ポイント制度が期待される。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	天候不順の為、飲料や冷菓の分野の段ボールケースも少ない。起爆剤となるユーザーの新製品やヒット商品もなく、低調な出荷が続いている。
		古紙	4月期の仕入高は、前年比において、段ボール：約97%±5%、新聞・チラシ：約94%±5%、雑誌・雑紙・その他合わせて：約97%±5%となっている。古紙の販売価格は去年の秋の下方修正のままである。引き続き円安の影響もあり、輸出価格が国内価格より上値であった。我々に届くかどうかかわからない2%の経済成長と給与UPの旗の下、物価上昇下での生活が変化するのか。新聞広告・雑誌等の販売はやはり低調で国内製紙会社の生産は前年並みになりつつある。組合員の古紙在庫は普通から少なめであると思う。
	印刷	印刷	年度が変わり、印刷業界の業況が上がることに期待したい。
	窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀信楽古陶館は入館者も多く、4月に入って観光客が多く、伊賀上野NINJAフェスタ開催のため、売上状況も大変良かった。伊賀焼産業会館は昨年同月と比較して売上状況・入館者数も変わらなかった。新緑伊賀焼陶器市等の開催のため、来客数は多く、待ち時間が出る状況であったが、売上状況は変わらずであった。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は3月同様ではあるものの、自動車関連商品は若干の陰りを見せている。その他のめっき等は3月同様扱う製品により異なるが、ほぼ横ばい状態である。半導体関連は3月よりも若干ではあるが、増産の方向で動き始めた。5月以降も生産量増と見込まれ、連休明けから徐々に始動といったところである。
	一般機器	四日市	先頃の東海財務局の発表した当地区の景況予測では、自動車関連を中心に大幅な改善がみられるとの発表があった。ムードに支配される我々日本人としては朗報であり、足許を見つめて組合員一同各々の仕事に努力している。円安株高を味方にして頑張りたい。
		津(久居)	新年度に入り、やや好転した企業もあれば、依然として低迷状況の企業もあり、バラツキのある状況下にある。
伊勢		自動車部品については回復基調にあるものの、産業機械や家電の部品については回復の足取りが遅い。	
電気機器	鳥羽	新年度に入っても状況は一変しない。厳しい状況が続いている。	
輸送機器	鈴鹿	新年度になり、円安の影響が何か良い方向で出ると期待したが、今のところは特に変わりはない。鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは予定していた4月末からの大型連休に前後1日ずつ追加して12連休となった。追加した2日分は後期に振り替えられ、繁忙時対策にする模様。目論み通り後期が繁忙となることを期待したいが、7月から埼玉県寄居の新工場が稼働の予定で、鈴鹿からは売れ筋車種が移管されてしまうこともあり、影響を受ける下請けは多い。	
非製造業	小売業	青果	不順な気候の為、多くの野菜の入荷量に変化があった。もちろん不安定な価格上下の中での取引となる。これから地場産が少なくなり、高地の入荷に頼ることとなる。地場産の力は大きく、農家の方々に感謝している。
		自転車	急激な円安・株高により、少し前までシマノは5,000円台だったのが、8,500円となっている。プラザ合意など多国間の政策が経済に影響を与えた例もあるが、日本単独の政治政策により、急激に経済に反映されたのは驚きである。自転車も輸入品の典型で、値上がりが必至である。世の中の景気が良くなって、値上がりを吸収してくれるのを願うばかりである。春需の反動で4月は動きがない。季節もよくなり、今後全体市場でスポーツバイクの可能性に注目している。

非製造業	小売業	家電	アベノミクス効果で円安・株高による景気は上向きであるが、我々家電小売業界にはまだまだ効果が出てこない。当組合では夏場商戦に向けて各支部で商品・技術勉強会を4月・5月・6月にかけて開催し、商品・技術知識の向上を図った。また顧客訪問時に提案のできる新商品の紹介など、組合員活性化に向けて取り組んでいく。
		石油	4月度の中東原油（ドバイ）価格については、前月対比で大幅な下落ではあったが、為替における円安影響の為、燃料油価格については多少の下落に落ち着いた。国内車向燃料油販売については前年対比減販状況であり、新車販売内容についてもハイブリッド車が主体であり、毎年ガソリン販売数量が4%減販状況である中、燃料油販売数量の増販強化を図るため価格競争により各販売店の収益が減少しているのが現状である。今後さらに各店の春に向けての各種キャンペーンが展開されるが、収益向上を考えての販売戦略を行って欲しい。
		スポーツ用品	アベノミクスの効果が、我々中小零細の小売業にも早く出てきてほしい。若干であるが、同じ用品でも高価なものを選んでくれている様にも思う。また学校体育の体操服の発注数も昨年までは最少単位だったが、今年から複数の注文があるように思う。
商店街	熊野	商店街が新たに開発した新商品「新姫ようかん」を発売。各物販施設においても好評のようである。「新姫ようかん」は熊野特産の柑橘種「新姫」の果汁を入れたようかんで、新姫独特の香りとさっぱりとした味わいが特徴である。昨年開発された「新姫くずもち」の第2弾として商品化されたもの。今年秋には熊野尾鷲自動車道が延伸化されるので、商店街のPR商品として今後の売り上げに期待がかかる。	
		旅館（鳥羽）	春休み中にも関わらず、4月前半から客足が伸びず状況は悪かった。4月後半のゴールデンウィーク前半の祝日は例年通り満室となっていたが、市内の渋滞もそれほどなく、全体的に観光客は減少していたように思う。
		飲食業	日本政策金融公庫における生活衛生関係営業（小規模飲食店の景況）の景気動向調査によると、「足元は依然として厳しいものの、4月～6月の見通しは明るい」とされているが、地方では様々であり、円安の進行による石油、電気料金の値上げによる営業コストの上昇での先行き不透明感も根強い。一方でアベノミクス効果の期待により、多少であるが好転しているという見方もある。県内では依然消費需要の高い鰻の仕入れ値も高騰して経営環境の悪化も心配される。
サービス業	警備業	3月度は公共事業の受注が多かったが、4月度は3月度の延長仕事と新規分で、少し仕事量が減少した。	
		建設業	年度末工事のずれ込みの影響が売り上げは前年同期に比べ増加している。ゴールデンウィーク以降新年度がどうなるのか不透明であるが、建設業界としては何となくも景気が上昇し、業界の活性化につながるようお願いしたい。
建設業	水道工事業（津）	毎年年度初めは業務量が少ないため、組合員は苦勞している。	
		運輸業	トラック

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
一般機器	四日市	日本経済は中小企業によって支えられており、行政庁はこのことを認識したうえで施策を講じてもらいたい。
	津（久居）	消費税増税が議論されているが、プライマリーバランスのことを考えれば必然的であろうが、その前に議員定数削減に対し、0増5減に集中し、大幅削減の火が消えているのではと思う。政府として政治に対する議員数を何人にすれば良いのか議論してほしい。
小売業	スポーツ用品	平成33年の国体、30年のインターハイに向かって、施設等の充実があると思うが、建設時や物品の購入時に特殊な物件の時に、入札時において同等品可という考え方はやめてもらいたい。
建設業	水道工事業（津）	円安の影響で輸入品目の値上げが予想され、特にガソリン価格の値上げに厳しい事業運営を迫られる。
運輸業	トラック	一般財源化され、課税根拠を失った軽油等にかかる暫定税率の撤廃を強く望む。免税となる分野はそのままであり、法の元の平等に反する。